9 月のおたより

父親が医師である家庭に一人っ子として生まれ、家業を継ぐか有名大学に進むという期待を背負っていた丸山康彦さんには、「いつかは一生懸命勉強するようになって有名大学に合格する」という"非現実的な自己像"が幼い頃から出来上がっていたそうです。

高校に進学し、いよいよ大学受験が目前になってくると、実際には勉強嫌いで成績も悪い自分とのギャップを思い知るようになります。それまでの自己像は崩壊し、心の中に"新しい自分"を「身ごもった」と言います。以来、学校を休むようになり留年。罪悪感・プレッシャー・負い目・自己否定感・葛藤、その他さまざまなマイナス感情による心の不調で「数日間登校しては数週間休む」というパターンを繰り返す日々を過ごしました。それは"新しい自分"を身ごもっているために起こる「心のつわり」だったのです。

そして、新しい自分を「出産」するための辛い「陣痛」が始まります。痛みの原因は「不登校の子=ダメ人間」という自己嫌悪感との葛藤でした。やがて、それを乗り越えた先に迎えたのが "新しい自分〃の「誕生」でした・・・。

今回講演していただくヒューマン・スタジオ代表の丸山さんは、ご自身の様々な不登校・ひきこもり体験を通して、また全国各地での相談会のご経験を通して、ご家族の回復へのヒントを示してくださいます。どうぞご期待ください。

（K）

・日時：9 月 28 日（土）13：30～菜の花ホール（館山市北条 1735）

・「不登校・ひきこもりが終わるとき」

体験者が当事者と家族に語る、理解と対応の道しるべ

講師：丸山康彦氏　ヒューマン・スタジオ代表
不登校のため高校を 7 年かけて卒業。大学卒業 1 年後からのひきこもり状態を経て 2001 年「ヒューマン・スタジオ」設立。2003 年から不登校・ひきこもり専門の相談室として、相談・家族会・連続講座・相談会などを通じて理解と対応のあり方を伝えている。現在「藤沢市社会福祉協議会」アドバイザリー（相談・助言・研修）、「ひきこもり当事者グループ「ひき桜」in 横浜」運営メンバー、「若者協同実践全国フォーラム」理事、など幅広く活動。講演多数。　著書『**不登校・ひきこもりが終わるとき**』は実売 1 万部（当日販売有）
https://husta.is-mine.net/　ヒューマン・スタジオ　不登校・ひきこもり研究所

・質疑応答

※ご参加は無料、ご予約不要、入退室も自由ですのでお気軽にお越しください。